

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	心理学演習 (Psychology Practice)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山田 野乃花
学科	歯科衛生科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜日 1・2限目

【授業の学習内容】

医療現場で働くに当たって、患者さんやスタッフ間でのコミュニケーションは必要不可欠です。この授業では、そうしたコミュニケーションのあり方を学ぶ時間にしていきたいと考えています。簡単な心理テスト等を通して自己理解を深め、自分にはどのようなコミュニケーションの取り方があっているのかということを考えたり、グループワークを通して他者理解を深め、どのような人にはどのような声かけをするとうまくいくのか、安心してもらえるのかということを見つけて行けると良いと思います。

※実務者経験：2017年4月から2018年3月まで同朋大学大学院人間福祉研究科附属心理臨床センターに勤務

2018年4月から2018年7月現在まで愛知県の中学校に勤務・金山メンタルクリニックに勤務

主業務：事務職員兼相談員・スクールカウンセリング・医療事務兼心理業務への関与

【到達目標】

自己を理解することで、他者への理解を一層深め、患者さんやスタッフ間のコミュニケーションに応用していける力を身につけることを目標に学習していきます。また、授業内での関わりを通して、どのような声かけが相手の安心に繋がるのか、どのような表情、行動が相手に与える印象をどう変化させるのかということも考えられるようになると良いと思います。

授業計画・内容

1回目	自己理解(グループワーク)
2回目	自己理解(グループワーク)
3回目	自己理解(視聴覚資料鑑賞)
4回目	自己理解(レポート)
5回目	他者理解(グループワーク)
6回目	他者理解(グループワーク)
7回目	他者理解(視聴覚資料鑑賞)
8回目	他者理解(レポート)
9回目	職場の心理学(グループワーク)
10回目	職場の心理学(視聴覚資料鑑賞・レポート)
11回目	患者さんとのコミュニケーション(グループワーク)
12回目	患者さんとのコミュニケーション(視聴覚資料鑑賞・レポート)
13回目	スタッフ間でのコミュニケーション(グループワーク)
14回目	スタッフ間でのコミュニケーション(視聴覚資料鑑賞・レポート)
15回目	レポート
準備学習 時間外学習	各授業後にレポートを作成し、次回の授業で提出。
評価方法	レポート(50%) 小レポート(25%) 演習への参加態度(25%) 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
受講生への メッセージ	グループワークはあまり得意ではないという人、そんなに抵抗がないという人、様々だと思います。抵抗のない人は、どのように声をかけたら得意でない人が安心して参加できるかという配慮する気持ちを持って参加してもらえると良いと思います。得意でないという人も、どういう声かけをしてもらえると安心できるな等々を学ぶ機会にできると良いと思います。そうした授業の中でのちょっとした関わりも、実際の臨床現場で活かせる技術の1つとして身につけられる
【使用教科書・教材・参考書】	
必要に応じて資料を配布します。	

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	栄養学 (Nutritional Science)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	平野 義晃
学科	歯科衛生学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	金曜・34限

【授業の学習内容】

食事指導による歯科疾患の予防・治療のアプローチのためには、栄養に関する知識が必要不可欠です。栄養学では、栄養素の消化・吸収や役割、食事摂取基準の概要、各栄養素の生体内での働き、国民の健康・栄養の実態、望ましい食生活指導の実際について理解し、各々の説明ができるようになる。
※実務者経験：なし

【到達目標】

歯科保健指導に必要な栄養の基礎知識を修得する。
＜具体的な目標＞
1. 栄養学の意義、栄養素の消化・吸収、代謝について説明できる。
2. 各栄養素の体内における機能が説明できる。
3. 食べ物と健康、食生活と健康の関係を理解し、望ましい食生活について説明できる。

授業計画・内容

1回目	栄養の基礎知識、栄養素の消化・吸収について説明できる		
2回目	食事摂取基準、基礎代謝について説明できる		
3回目	糖質の種類と栄養的意味が説明できる		
4回目	タンパク質の種類と栄養的意味が説明できる		
5回目	脂質の種類と栄養的意味が説明できる		
6回目	ビタミン・ミネラルの種類と栄養的意味、水・食物繊維の栄養的意味が説明できる		
7回目	食生活と健康、食べ物と健康の関係を理解し、食事バランスガイドが概説できる		
8回目	試験、講評		
準備学習 時間外学習	生化学による生命現象の理解は栄養学を学ぶ上で不可欠です。生化学を修得しておくこと。 講義はテキストに沿って行います。単元の予習をして授業に臨んでください。 単元終了時には小テストまたはレポート課題で修得度の確認を行いますので、講義の復習が必要です。		
評価方法	1. 定期試験(70%) 2. 小テスト・レポート(20%) 3. 出席・受講態度(10%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	単元ごとに基礎知識の修得度を小テストやレポートで確認する。 定期試験により、授業の具体的な目標への到達度を評価する。
受講生への メッセージ	高齢化社会において、栄養学や食事の摂り方を含めた食生活指導は、歯科衛生士の重要な仕事となっています。将来の歯科保健指導実践のために、全身の健康を保つための栄養学をしっかり理解しましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
教科書：全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 医歯薬出版 参考書：城田知子、田村明、平戸八千代著：イラスト栄養学総論 第7版 東京教学社			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	栄養学実習 (Practice Nutrition)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	奥村 圭子・石川 洋子
学科	歯科衛生科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	金曜、3・4限

【授業の学習内容】

栄養学実習では、歯科衛生士として医療や介護にかかわる多職種と連携しながら、食べる機能の発達・維持・回復などに応じた食支援を学ぶため、実際に調理や食事、支援の方法を体験する。

※講師の略歴

※奥村圭子：2000年～2020年まで病院、福祉施設、在宅医療、居宅介護事業所、保健センター等に所属する。

主業務は高齢者を中心とした栄養管理、ケアマネジャー、介護予防事業を行う。現在、愛知県栄養士会副会長兼栄養ケア・ステーションセンター長、認定栄養ケアステーション杉浦医院/地域ケアステーション はらぺこスパイス室長、名古屋学芸大学健康・栄養研究所客員研究員、国立長寿医療研究センター外部研究員 博士(医学)。

※石川 洋子：管理栄養士。1975～2024年、透析・外科病院、保育園栄養士勤務を経て、食育クッキング、離乳食教室、各種栄養教室、介護予防教室などの講師、保健センターの健診業務、介護予防推進員、介護職員初任者研修講師、国民健康・栄養調査調査員、機能強化型栄養ケアステーション「もーやっこ」「やまびこ」「はらぺこスパイス」登録栄養士。

【到達目標】

- ①乳幼児期から高齢期までの各ライフステージにおける口腔機能に応じた食の選択やその調理方法を実習する。
- ②う蝕・歯周病、生活習慣病など有病者に対する食生活指導を行うための基礎知識を習得する。
- ③他職種と連携しながら食べる機能の発達・維持・回復、う蝕予防、摂食嚥下障害や要介護の原因となる生活習慣病の予防、口腔トラブルによって起こりうる低栄養の防止など食支援について演習する。
- ④ 地域共生社会における多職種連携の仕組みと歯科衛生士の役割を理解し、低栄養重症化予防のための基礎知識を習得する。

授業計画・内容

1回目	乳幼児期の口腔発達と食事について説明できる。		
2回目	青年・壮年期の特性と食事、生活習慣病コントロールのための食生活について説明できる。		
3回目	高齢期の特性と食事、調理工夫について説明できる。		
4回目	共生型地域包括ケアの食の支援と歯科衛生士の役割について説明する(1)		
5回目	共生型地域包括ケアの食の支援と歯科衛生士の役割について説明する(2)		
6回目	定期試験を実施する／試験解説を通して、知識の整理と正しい答えを導くことができる		
7回目	【調理実習】 離乳食の月齢、口腔機能の発達も考慮した内容で調理実習・試食・評価できる。		
8回目	【調理実習】 高齢期の食事および摂食・嚥下調整食の調理実習・試食・食事介助・評価ができる。		
準備学習 時間外学習	すでに学習した栄養学やライフステージにおける歯科衛生介入、生活習慣病などの疾患についての知識が必要です。関連箇所しっかり復習して授業に臨んでください。 小テストを実施します。復習を怠らないでください。		
評価方法	1. 定期試験 (50%) 2. 課題成果 (20%) 3. 調理実習態度・レポート (感想・理解他) (30%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	う蝕や歯周病は生活習慣病の一部である食生活と密接に関係します。この授業で栄養・食支援の立場から、口腔機能の発育と低下、歯科疾患の予防・治療、ヘアプローチできる力を養うことを目標にしていますので、実習やグループワークでも積極的な姿勢で学ぶことを期待しています。		
【使用教科書・教材・参考書】 最新歯科衛生士教本「栄養と代謝」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 随時配布プリントあり 新訂版 地域包括ケアと口腔ケア 口腔保健協会			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	公衆衛生学 (Community Hygiene)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	新井康司
学科	歯科衛生学科	授業	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	2	曜日・時限	水曜・3時限

【授業の学習内容】

公衆衛生学では、人類が生きるのに最低限必要な資源と社会制度について学びます。
超高齢社会に突入した日本における医療サービスの提供は、疾病の克服だけでは目的を達さなくなっている。
多職種連携が前提である現在の医療サービスにおいて必要不可欠な学問と言えます。
実務経験：1997年～2001年愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座に所属。2001年～2005年国立長寿医療医療センター病院・研究所に所属、将来における長寿医療のあり方を模索、疫学について研究を行いました。

歯科衛生士は国が定めた国民の命を守る重要な職業の一つです。社会に出る前に国が歯科衛生士に与えた職務を説明でき、社会における自分の立ち位置を説明できるようになってください。

授業計画・内容

1回目	健康の定義 疫学 ヘルスプロモーション について説明できる		
2回目	医の倫理 患者の権利 インフォームド・コンセント について説明できる		
3回目	我が国の人口の推移について説明できる		
4回目	我が国の医療従事者数および医療機関数の推移について説明できる		
5回目	環境衛生 空気と水の安全について説明できる		
6回目	環境衛生 地球温暖化と対策について説明できる		
7回目	環境衛生 屋内環境について説明できる		
8回目	環境衛生 廃棄物処理と地球資源保全について説明できる		
9回目	食品衛生 飲食物の安全・食中毒について説明できる		
10回目	健康づくり運動 健康日本21（第3次）について説明できる		
11回目	公害 4大公害の発生場所、原因について説明できる		
12回目	労働法と職業病について説明できる		
13回目	災害保健 国際保健について説明できる		
14回目	テーマ学習 近年起きた公衆衛生上の出来事について相互に議論する		
15回目	試験		
準備学習 時間外学習	専門分野である歯科のみならず、保健一般の知識の充実が求められます。 「なごや環境大学」の共育講座や公官庁の衛生施設見学へ自ら参加する等、視野を広げる工夫をしてください。 また、関係した出来事の新聞記事を在学中スクラップするとよい復習になります。 提出物件が返却されたら必ずファイルして保管し、復習に役立ててください。		
評価方法	定期試験（90％） 提出物等(10%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	関わる範囲が非常に広い学問です。身近な出来事がよい教材になることが多いので、講義室以外でも勉強ができる学問と言えます。常に好奇心をもって学んでください。		
【使用教科書・教材・参考書】 公衆衛生がみえる 第6版 2024／2025 メディックメディア			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	衛生行政・社会福祉学 (Public Health Administration Social Welfare)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	新井康司
学科	歯科衛生学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜・4限
【授業の学習内容】 我が国の国民の命を支える法律と社会保障制度（含；福祉制度）について説明できるようになりましょう。 ※実務者経験：1997年～2001年愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座に所属。2001年～2005年国立長寿医療医療センター病院・研究所に所属、将来における長寿医療のあり方を模索、疫学について研究を行いました。							
【到達目標】 歯科医療に関わる各職業と施設の法律的位置づけ、職務規程について説明できるようになる。 国民の生活を守る保健規定、社会保障制度、社会福祉制度を正しく説明できるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	医療行政序章 歯科医師法 歯科技工士法 業務と義務について説明できる		
2回目	歯科衛生士法と保健師助産師看護師法 業務と義務について説明できる		
3回目	母子保健 母子健康手帳の機能 1歳6ヶ月児健診 3歳児健診について説明できる		
4回目	学校保健 就学時健康診断 学校保健統計に見る近頃の傾向 生きる力 児童虐待防止について説明できる		
5回目	地域保健 歯科口腔保健法 について説明できる		
6回目	感染症の制御について説明できる		
7回目	健康増進法 健康増進事業 受動喫煙対策 健康日本2 1（第3次） 特別用途食品の表示について説明できる		
8回目	医療法 診療所の開設・廃止 標榜制度 安全管理 保健所による医療監視について説明できる		
9回目	医薬品医療機器等法 医薬品と医薬部外品の定義 毒薬と劇薬の表示 について説明できる		
10回目	社会保障序章 医療保険制度について説明できる		
11回目	高齢者保健 年金と介護保険制度について説明できる		
12回目	産業保健 雇用保険制度 労働者災害補償保険制度について説明できる		
13回目	生活保護制度 給付の原則 現物・現金給付 制度上の問題点について説明できる		
14回目	障害者福祉制度について説明できる		
15回目	試験		
準備学習 時間外学習	関係した出来事の新聞記事を在学中スクラップするとよい復習になります。 授業中にも新聞記事を副教材として配布します。講義との関連に注意してください。 提出物件が返却されたら必ずファイルして保管し復習に活用してください。		
評価方法	定期試験（90%） 提出物件等(10%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	取り扱う法律の数が多いためか国家試験の出題数が多いので、要点をまとめて知識を整理する工夫が求められます。		
【使用教科書・教材・参考書】 公衆衛生がみえる 第6版 2024／2025 メディックメディア 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度 医歯薬出版			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	保健情報統計学 (Health Informatics and Statistics)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	新井 歌織
学科	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 疫学とは何かを歴史から知り、疫学研究の方法からそしてデータを自分でどう活かして表現作成、魅せる表グラフの作成、数字から分析し何を表現したいかを説明できるようする知識を習得する。 ※実務者経験: 歯学部口腔衛生学講座に所属し、その後歯科診療所、介護訪問、歯科健診等の現場で実務経験を有する歯科医師の教員が、その経験を活かして歯科に必要な統計について指導する。							
【到達目標】 ・集団の特性を知るための統計を理解し、説明できる ・歯科に関する評価の表現方法について説明できる ・グラフを読み、作成し、その特徴を説明できる							

授業計画・内容			
1回目	疫学とは。疫学の方法論について説明ができる		
2回目	歯科の指数(う蝕)について説明ができる		
3回目	歯科の指数(口腔清掃)について説明ができる		
4回目	歯科の指数(歯周疾患)について説明ができる		
5回目	歯科の指数(その他)について説明ができる		
6回目	グラフを読んで、作成ができる		
7回目	データの解析が説明できる		
8回目	総復習 試験		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	授業内で配布する印刷物は、單元ごとにまとめ、講義の復習に使用してください。		
評価方法	1. 定期試験(90%) 2. 小テスト(10%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	新しく学ぶことの多い分野です。様々な視野からの見方ができるようになり世界が広がるでしょう。興味をもって授業に望んでください。		
【使用教科書・教材・参考書】			
教科書: 歯科衛生士教本 保健情報統計学 医歯薬出版			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	歯科医療倫理 (Ethics in Dentistry)	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	宇佐美 雄司
学科	歯科衛生科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月曜・1限

【授業の学習内容】

医療従事者として歯科衛生士も医療倫理に則つとり、診療に従事することが求められます。歯科医学の進歩と口腔に関わる健康保持、増進との調和をはかる上で、生命倫理を理解し、医療倫理を会得していることが望まれます。そして、将来的にも、高い倫理観を保っていく姿勢の醸成を目指します。さらに、医療倫理と関連の深い、医療安全に関しての知識も教授していきます。

* 1982年から大学病院にて歯科、口腔外科診療に携わり、さらに1987年からは教官として医学部学生や卒後間もない歯科医師の教育等に当たってきた。2001年からは卒後臨床研修歯科医師の指導や複数の歯科衛生士学校で講師を務めている。

【到達目標】

- ・医療倫理の必要性を理解し、歯科衛生士としての倫理上の使命を考察する。
- ・医療従事者として、将来に渡って医療倫理を高めていく姿勢を見につける。
- ・倫理に基づくインフォームド・コンセントが得られるようにする。
- ・医療倫理と齟齬が生じないように、適切な医療安全が構築できるように、歯科診療における歯科衛生士の役割を理解する。

授業計画・内容

1回目	生命倫理と医療倫理の概念		
2回目	医学研究、EBMの理解		
3回目	医療倫理に基づくインフォームド・コンセント		
4回目	歯科医療における倫理を踏まえた行動について		
5回目	医療安全の概要と法的背景		
6回目	インシデント、アクシデントの理解		
7回目	歯科診療における医療安全の構築 およびまとめ		
8回目	試験と解説		
準備学習 時間外学習			
評価方法	1.定期試験(70%) 2.レポート(20%) 3.出席、授業態度(10%) 以上から総合評価	評価基準 90点以上 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 60点未満 F不合格	
受講生への メッセージ	講義形式が主体となりますが、抽象的な内容を可及的に事例を提示しみなさんに考えていただきながら理解していただきたいと思います。		

【使用教科書・教材・参考書】

歯科医療倫理(医歯薬出版)および各回で資料配布予定です。

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	口腔外科学 (Oral and Maxillofacial Surgery)	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	岡部 一登
学科	歯科衛生科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜・1限

【授業の学習内容】

口腔外科とは、口腔(口の中)、顎(あご)、顔面ならびにその隣接組織に現れる先天性および後天性の疾患を扱う診療科です。この領域の異常は、食事や発音・会話がうまくできないなどの機能的な障害に加えて審美的な障害も生じます。治療により、口腔・顎・顔面の自然な形態や機能を取り戻すことができます。

授業を通して、口腔外科の扱う疾患だけでなく、関連する全身疾患や麻酔、救急処置についても理解し、歯科衛生士の役割を習得します。

※実務者経験:2009年4月～2017年3月まで豊田厚生病院、2017年4月～2023年3月まで名古屋大学医学部附属病院、2024年4月～現在まで名古屋市立大学医学部附属東部医療センターに所属する。主業務は歯科口腔外科です。

【到達目標】

口腔外科に携わる歯科衛生士として、役割を果たすために必要な知識を習得する。

＜具体的な目標＞

目標①:口腔外科を説明できる。

目標②:口腔外科で扱う疾患を説明できる。

目標③:口腔外科に関連する全身疾患や麻酔、救急処置を説明できる。

授業計画・内容

1回目	口腔外科を説明できる(総論①)		
2回目	口腔外科を説明できる(総論②)		
3回目	先天異常と発育異常を説明できる、小テスト1		
4回目	顎顔面の損傷を説明できる、小テスト2		
5回目	口腔粘膜疾患を説明できる、小テスト3		
6回目	炎症を説明できる、小テスト4		
7回目	嚢胞を説明できる、小テスト5		
8回目	腫瘍を説明できる、小テスト6		
9回目	唾液腺疾患を説明できる、小テスト7		
10回目	顎関節疾患を説明できる、小テスト8		
11回目	神経疾患と血液疾患を説明できる、小テスト9		
12回目	処置を説明できる、小テスト10		
13回目	麻酔を説明できる		
14回目	救急処置を説明できる		
15回目	試験および解説		
準備学習 時間外学習	授業に対する理解が深まるため、事前の準備として教科書を読んでおいてください。 内容が多いため、配布する資料を復習するなどして効率よく学習してください。		
評価方法	・定期試験(60%) ・小テスト(30%) ・出席(10%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	口腔外科は専門性が高く、知識や技術の習得など求められることが多いです。しかし、習得したものを活かして患者さんが喜ぶ姿をみることや多職種と連携するチーム医療の一員になることなど、やりがいを感じることも多いです。授業を通して、口腔外科の魅力を感じてください。		

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:池邊哲郎、他 編著 歯科衛生士講座 口腔外科の治療と診療補助 永末書店

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	小児歯科学 (Pediatric Dentistry)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渥美 信子
学科	歯科衛生士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部				2	曜日・時限	木曜・2限

【授業の学習内容】

小児を対象とする歯学の1分野である小児歯科学の目的は、胎生期から成長発育して成人にいたる間の口腔領域の正常な発育を図り、健全な顎口腔機能を育成するための理論や方法を修得することにある。

そこで、小児の口腔領域の正常な発育、発育を障害する異常や口腔疾患、その予防法や治療法、小児の対応法について理解し、本授業終了時には説明できるようにする。

実務者経験：1987年から大学附属病院に所属し、小児歯科専門医として小児歯科診療に従事している。

【到達目標】

小児の口腔領域の正常な発育について理解し、その健全な発育を障害する異常や口腔疾患について、その予防法と治療法を説明できる。

〈具象的な目標〉

目標①小児の心身の発育および顎口腔領域の発育を説明できる。

目標②乳歯および幼若永久歯の特徴、う蝕の特徴と予防法、小児にみられる口腔軟組織の異常や疾患を説明できる。

目標③小児患者の対応法を説明できる。

目標④乳歯および幼若永久歯の歯冠修復処置、歯内療法処置、外科的処置、咬合誘導処置を説明できる。

授業計画・内容

1回目	概論、心身の発育：小児の言語、情動、運動機能、摂食・嚥下機能の発達を説明できる。(教科書P.1-19)
2回目	小児の生理的特徴、顔面頭蓋の発育：脳頭蓋・顔面頭蓋の発育の特徴を説明できる。(教科書P.20-30)
3回目	歯の発育とその異常①：乳歯および幼若永久歯の特徴を説明できる。(教科書P.31-36)
4回目	歯の発育とその異常②：歯の形成異常および歯の萌出時期と順序を説明できる。(教科書P.36-42)
5回目	歯列・咬合の発育と異常：歯列の発育分類および各歯列期の臨床的特徴を説明できる。(教科書P.43-52)
6回目	小児にみられるう蝕、歯周疾患：乳歯および幼若永久歯う蝕の特徴を説明できる。(教科書P.53-60)
7回目	小児にみられる口腔軟組織疾患、小児虐待：小児の口腔粘膜や歯肉の疾患を説明できる(教科書P.61-77)
8回目	小児歯科における患者との対応法：歯科診療室における小児の対応法を説明できる。(教科書P.78-95)
9回目	小児歯科診療とその特徴：小児歯科診療の特徴を説明できる。(教科書P.96-112)
10回目	小児の歯冠修復：乳歯および幼若永久歯の歯冠修復処置の概要を説明できる。(教科書P.112-123)
11回目	小児の歯内療法：乳歯および幼若永久歯の歯内療法処置の概要を説明できる。(教科書P.124-137)
12回目	小児の外科処置、外傷の処置：乳歯および幼若永久歯の外科的処置の概要を説明できる。(教科書P.137-146)
13回目	咬合誘導：保険の目的および保険装置の種類、適応症、利点・欠点を説明できる。(教科書P.146-149)
14回目	う蝕予防：ブランクコントロール、フッ化物の応用、小窩裂溝塞法について説明できる。(教科書P.149-152,169-185)
15回目	試験・試験解説

準備学習
時間外学習

事前に教科書の該当ページを熟読し、授業後には学習した知識を整理・修得し、次回の授業に臨むこと。

評価方法	1. 定期試験(100%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
------	---------------	--

受講生への
メッセージ

小児歯科診療では、心身ともに成長発育過程にある小児を対象として、さまざまな歯科治療が行われる。また、小児患者では対応法についても注意する点が多い。この授業を通して、成人とは異なる小児の歯科診療に関する基礎的な知識を身につけていただきたい。

【使用教科書・教材・参考書】

歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 医歯薬出版

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス

科目名 (英)	歯科矯正学 (Orthodontics)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	関谷 健夫、飯田 資浩 、専任教員
学科	歯科衛生科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	後期
コース	昼間 I 部				2	曜日・時限	木曜 1・2限 または金曜 3・4限

【授業の学習内容】

マルチブラケット装置などの固定式装置が装着された場合、口腔清掃が難しくなることから、歯科衛生士による口腔衛生指導は歯科矯正治療を行う上で必要不可欠であり、食生活指導や口腔筋機能療法の指導に加え、矯正装置の使用法などを理解することは、チーム医療を担う歯科衛生士として重要である。

※実務者経験:愛知学院大学歯科矯正学講座に所属し、附属病院での歯科矯正治療を担当している。また、歯学部および歯科衛生士の学生指導に携わっている。

【到達目標】

- ・歯列・咬合の不正に対する治療の必要性ととも、ベネフィットとリスクを説明できる。
- ・矯正治療の特異性を学習し、臨床の場において診療補助・予防処置および指導ができる。
- ・歯科矯正治療の目的と必要性を理解し、臨床における治療の流れと使用する器具器材を理解する。

授業計画・内容

1回目	矯正歯科治療の目的と必要性、矯正歯科治療における歯科衛生士の役割
2回目	
3回目	顎顔面と歯列の成長発育、口腔機能の発達
4回目	
5回目	正常咬合の概念と不正咬合の種類と分類、不正咬合の原因と予防
6回目	
7回目	矯正歯科診断に必要な検査項目とその方法や意義、歯の移動と固定、歯の移動と組織反応、矯正力と顎整形力、保定
8回目	
9回目	矯正装置の使用目的と装着時の指導
10回目	
11回目	矯正歯科治療の実際
12回目	
13回目	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割
14回目	
15回目	試験および試験解説

準備学習
時間外学習

- ・歯科矯正学を学ぶ上で、「口腔解剖学」「口腔生理学」「歯科放射線学」「小児歯科学」などの知識は必要不可欠であるため、復習してから臨んでください。
- ・回数が進むごとに知識が積み重なっていくため、前の回の復習を予習として実施してください。

評価方法

定期試験(95%)
授業態度(5%)

評価方法はGPA制度となります
100～90点 S
89～80点 A
79～70点 B
69～60点 C
59点以下 F不合格

受講生への
メッセージ

体調管理には気をつけて、欠席をしない様にしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正」

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	高齢者歯科学 (Geriatric Dentistry)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	宇佐美博志・宮本佳宏
学科	歯科衛生科	授業 形態	講義	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	木曜・1限
【授業の学習内容】 我が国の総人口は、平成30(2018)年10月1日現在、1億2,644万人となっている。65歳以上人口は、3,558万人となり、総人口に占める割合(高齢化率)も28.1%となった。高齢者が歯科治療を受診する機会が増すと考えられている。高齢者の全体像を把握し、歯科治療における特徴や注意すべき点を学ぶ。口腔健康管理の多くは衛生士が担い手となる分野である ※実務者経験：愛知学院大学歯学部高齢者・在宅歯科医療学講座で講師として勤務し、附属病院での臨床も担当している。高齢者・有病者に対する訪問歯科診療に従事している。							
【到達目標】 高齢者における歯科治療の特徴や注意点を説明できる。 要介護者や認知症の人の対応を説明できる。 摂食・嚥下障害を説明できる。							
1回目	高齢者をとりまく社会と環境について説明できる						
2回目	加齢による身体的・精神的変化と疾患について説明できる						
3回目	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患について説明できる						
4回目	高齢者の状態(生活機能・臨床検査・栄養状態・薬剤服用)の把握について説明できる						
5回目	摂食・嚥下リハビリテーションについて説明できる						
6回目	高齢者に関わる医療と介護について説明できる						
7回目	高齢者歯科における歯科衛生過程について説明できる						
8回目	口腔健康管理について説明できる						
9回目	試験および試験解説						
10回目							
11回目							
12回目							
13回目							
14回目							
15回目							
準備学習 時間外学習	高齢者歯科診療の背景にある高齢者の特徴、フレイル、口腔機能低下症、摂食嚥下障害、高齢者に多い疾患(脳卒中、認知症等)について最新の情報を得るために新聞、テレビニュース、各種広報誌の発信に注意を払う。						
評価方法	定期テストにて知識・技能の到達評価および出席状況など総合評価を行う。 定期試験(80%) 出席状況・授業態度・小テスト、レポートなど(20%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格					
受講生への メッセージ	魅力:口は栄養の入り口、社会の入り口です。かむこと、かめること、味わうことや会話や表情を作るコミュニケーションの入り口なのです。ライフステージ後半の高齢者の口を支援する分野です。その中で歯科衛生士に求められることは多く、急性期病棟から回復期、施設・在宅での療養期、緩和期医療まで幅広くあります。患者さんご本人・ご家族からも、他職種も大変感謝されます。 授業計画:教科書のCONTENTSに沿って内容は構成されていますが、より理解を深めるために教科書に載っていないことも授業内容に取り入れていきます。近年、教科書は改訂の度に厚さを増しています。高齢者を理解できる衛生士が必要とされる証拠だと思います。						
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:植田耕一郎:歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学第1版、医歯薬出版 参考書:田村清美、渋谷恭之:地域包括ケアと口腔ケア、医歯薬出版							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	障害者歯科学 (Special Needs Dentistry)	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	石黒 光
学科	歯科衛生科	授業	講義	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	1	曜日・時限	金曜・1限

【授業の学習内容】

誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会のもと、その意味を正しく把握し、歯科医療においても特別な配慮が必要な様々な障害児・者に対応できる歯科衛生士が社会から求められている。そのために、障害の特性を理解し、行動調整やコミュニケーションの方法を学び、診療現場での対応だけでなく、地域の福祉施設やデイスサービス、在宅の場などに応じて歯科保健指導の支援ができるよう基本的な知識と技術を学ぶとともに、関連する多職種や家族にも、わかりやすく説明できるようにする。

【到達目標】

- ①共生社会やICFなどの基本的考え方を理解し、説明できる。
- ②歯科医療現場で、様々な障害児・者が受診するが、それぞれの特性を理解し、その対応のスキルについて説明できる。
- ③上記の障害児・者自身およびその家族や介護者に、歯科保健の支援について、個々の特性に応じ具体的に説明できる。
- ④重い障害児・者に対して、全身的な観点からリスク評価を行い、口腔管理について他職に対し説明ができる。
- ⑤地域の障害児・者の生活環境に応じて、家族や介護者、他職と連携して、ライフサイクルに応じた支援策を提示できる。

授業計画・内容			
1回目	障害の概念と福祉制度（ICF、共生社会、歯科医療における特別なニーズや対応、障害の受容）		
2回目	歯科医療で特別な配慮と支援が必要な障害（その種別の特徴と理解、歯科診療・保健での支援策）		
3回目	障害者とのコミュニケーション法、行動調整法、サポートの際の手法		
4回目	障害者に対する健康支援と口腔衛生支援、歯科衛生過程の応用		
5回目	障害者歯科医療におけるリスク評価と管理、医療的ケアを要する重症児への対応		
6回目	障害者の摂食嚥下機能障害とそのリハビリテーション、栄養管理		
7回目	障害者歯科における多職種連携と地域医療連携		
8回目	試験		
9回目			
10回目			
準備学習 時間外学習	①福祉の視点で障害児・者の歯科医療をとらえ、ICFの考え方を理解し、説明できる。 ②歯科医療で特別な配慮を要する障害の種別に応じて、その特性と対応法について説明できる。 ③障害児・者に応じた歯科保健支援の方法などについて説明できる。 ④重度の障害児や医療的ケア児のリスク管理について説明できる。 ⑤地域における福祉関係連絡資源と歯科医療機関の連携について説明できる。		
評価方法	1. 定期試験 80（％） 2. 小テスト 20（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	日常、障害をもつ人と接する機会がない学生さんは、どう接したらよいかわからず戸惑うことが多いが、歯科医療機関では歯科衛生士として最前線での対応が求められる。新聞やテレビ、インターネットで障害者に関する話題に関心をもつことで、様々な障害の特性を知り、コミュニケーションの手法を学び、歯科保健指導に必要な知識を理解していただき、施設実習につなげ、地域包括ケアの面から多職種と連携してケアする経験をしてほしい。		
【使用教科書・教材・参考書】			
●歯科衛生士教本「障害者歯科」 医歯薬出版			
●スペシャルニーズデンティストリー 医歯薬出版			
●歯科衛生士講座 障害者歯科学 永末書店			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅲ (Oral Prophy laxis Ⅲ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	熊谷あゆみ 山田 和代
学科	歯科衛生科			総時間	60	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部	授業形態	実技	(単位)	2	曜日・時 限	月曜 3,4限

【授業の学習内容】

歯科衛生士の臨床実習では、患者に対して指導者の指示のもと歯科予防処置を実施する。本科目では、その前段階として歯科予防処置Ⅰ・Ⅱで培ってきた知識と技術に、さらに高度な歯肉縁下のための器具器材およびその操作法を修得するため、相互に歯科予防処置を実施する。

※実務者経験：保健所、歯科医院、歯科衛生士養成所に25年以上勤務

【到達目標】

- ・相互実習の一連の流れを記録し、相互に声掛けを行いながら実施する。
- ・相互に口腔内診査を実施し、その結果を説明できる。
- ・1年次の歯肉縁上歯石除去法を復習し、相互に実施する。
- ・歯肉縁下での器具器材の操作法を習得し、相互に実施する。
- ・歯科予防処置後の患者説明を実施する。

授業計画・内容

1回目	歯周組織、歯周病について説明できる。／シックルスケーラーの基本操作を説明し、実施する。		
2回目	キュレットスケーラーの種類と特徴を説明できる。／キュレットスケーラーの基本操作を説明できる。		
3回目	シックルスケーラーの部位別操作法およびシャープニングを説明し、実施する。		
4回目	模型上で前歯部の歯肉縁下歯石除去を実施する。／前歯部用キュレットスケーラーのシャープニング方法を説明し、実施する。		
5回目	模型上で下顎臼歯部の歯肉縁下歯石除去を実施する。／臼歯部用キュレットスケーラーのシャープニング方法を説明し、実施する。		
6回目	模型上で上顎臼歯部の歯肉縁下歯石除去を実施する。／臼歯部用キュレットスケーラーのシャープニング方法を説明し、実施する。		
7回目	シャープニングと技術の振り返りを実施する。		
8回目	ファントムと模型を用い、キュレットスケーリングの実技試験を実施する。		
9回目	相互実習で前歯部の歯肉縁上縁下歯石の除去とルートプレーニングを実施する①		
10回目	相互実習で前歯部の歯肉縁上縁下歯石の除去とルートプレーニングを実施する②		
11回目	相互実習で下顎臼歯部の歯肉縁上縁下歯石の除去とルートプレーニングを実施する①		
12回目	相互実習で下顎臼歯部の歯肉縁上縁下歯石の除去とルートプレーニングを実施する②		
13回目	相互実習で上顎臼歯部の歯肉縁上縁下歯石の除去とルートプレーニングを実施する①		
14回目	相互実習で上顎臼歯部の歯肉縁上縁下歯石の除去とルートプレーニングを実施する②		
15回目	知識・技術の総まとめとして、全講義の振り返りと部位別操作法の相互実習フィードバックを実施する。		
16回目	知識の総まとめとして筆記試験を実施する。		
準備学習時間 外学習	1年生で履修した「歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ」「歯周病学」の知識と技術を応用します。関連事項の復習を行ってから、実習に臨んでください。 毎回、前の授業の知識や技術を使い実習が進みます。授業終了後の復習を欠かさないようにしてください。授業の最初に前回の内容の復習小テストを実施することがあります（評価に含まれる）。 歯石除去には指のトレーニングが必要です。毎日10分の基本訓練を実施してください。		
評価方法	1. 定期試験 (30%) 2. 小テスト (15%) 3. レポート (10%) 4. 授業態度 (15%) 5. 実技試験 (30%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	実習が中心であり、2コマ続きで実施します。内容には継続性があり、授業の進行により知識・技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、毎日の予習復習を積極的に行ってください。 相互実習が中心となります。医療安全に留意してください。		

【使用教科書・教材・参考書】

最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」、「歯周病学」、「配布されるプリント」

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	歯科保健指導論Ⅲ (Oral Health InstructionⅢ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	熊谷あゆみ
学科	歯科衛生科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 2	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	木曜 3・4限

【授業の学習内容】

・各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、口腔及び全身状態又は社会的背景を理解し、それに応じた口腔保健管理ができる。

※実務者経験:保健所、歯科医院、歯科衛生士養成所に25年以上勤務

【到達目標】

- ・的確な指導を考え、わかりやすい歯科保健指導ができる
- ・ライフステージごとに合わせた歯科保健指導ができる
- ・集団に対し、わかりやすい媒体作製ができる

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション 『妊産婦期』		
2回目	小テスト 『妊産婦期』		
3回目	小テスト 『乳児期』		
4回目	小テスト 『幼児期』		
5回目	実習 ＜乳幼児の口唇と舌機能について＞		
6回目	実習 ＜幼児期の集団保健指導＞		
7回目	実習 ＜集団保健指導:＞		
8回目	実習 ＜集団保健指導:媒体作製＞		
9回目	実習 ＜集団保健指導:媒体作製＞		
10回目	実習 ＜集団保健指導:幼児期・学齢期・成人期＞ 発表		
11回目	小テスト 『学童期』		
12回目	小テスト 『青年期』		
13回目	小テスト 『成人期』		
14回目	小テスト 『老年期』		
15回目	小テスト まとめ		
16回目	筆記試験・試験解説		
準備学習 時間外学習	この単元は臨地・臨床実習に向けての単元になります。 世代に応じた歯科保健指導をきちんと理解するために復習必須となります。 実習は積極的に取り組んで下さい。		
評価方法	1. 定期試験(40%) 3. 授業態度(20%) 4. 課題成果(20%) 5. 提出物(20%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	知識の確認のため小テストを行います。 内容には継続性があり、授業の進行により知識、技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け予習復習を積極的に行ってください。		
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」、「保健生態学」、「配布されるプリント」			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	歯科保健指導論Ⅳ (Oral Health InstructionⅣ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	熊谷あゆみ
学科	歯科衛生科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	水曜4限

【授業の学習内容】

・対象者のニーズに応じた歯科衛生ケアを科学的に実施するために、歯科衛生ケアプロセス(歯科衛生過程)の基本的知識、技術、態度を理解し作成できるようになる

※実務者経験:保健所、歯科医院、歯科衛生士養成所に20年以上勤務

【到達目標】

- ・歯科衛生ケアプロセス(歯科衛生過程)を画面化することができる
- ・歯科衛生評価ができる

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション 歯科衛生過程の進め方 歯科衛生アセスメントの情報収集と情報整理(1年生の復習を含む)		
2回目	小テスト 歯科衛生過程の進め方		
3回目	小テスト 歯科衛生過程の各構成要素		
4回目	小テスト 歯科衛生過程の各構成要素		
5回目	小テスト 臨床実習に向けて:歯科衛生過程を考える		
6回目	小テスト 臨床実習に向けて:歯科衛生過程を考える		
7回目	小テスト 臨床実習に向けて:歯科衛生過程を考える		
8回目	筆記試験・試験解説		
準備学習 時間外学習	この単元は臨地・臨床実習に向けての単元になります。 歯科衛生過程が理解できるように予習・復習は必須です。 グループワークは積極的に取り組んで下さい。		
評価方法	1. 定期試験(40%) 3. 授業態度(20%) 4. 課題成果(20%) 5. 提出物(20%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	知識の確認のため小テストを行います。 内容には継続性があり、授業の進行により知識、技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、予習復習を積極的に行ってください。		

【使用教科書・教材・参考書】

最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	歯科診療補助論Ⅲ (Dental AuxiliaryⅢ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	熊谷あゆみ・小出夕理
学科	歯科衛生科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 2	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜、1,2限

【授業の学習内容】

・臨床実習に向けて・・・

歯科診療補助に必要な治療時の補助業務の考え方保存治療時の主要歯科材料の種類と取扱い

(成形歯冠修復材、仮封材、ワックス、 歯肉排除、薬剤について)

・各治療時の診療補助

(保存修復治療、補綴治療、歯内療法、歯周治療、矯正治療、口腔外科処置、小児歯科治療)について理解し、

本授業終了時には各々の説明および治療準備を習得する

※実務者経験:保健所、歯科医院、歯科衛生士養成所に25年以上勤務

【到達目標】

①医療安全の概念、対策、インシデント、アクシデント報告の目的を習得する。

②臨床実習の前段階として診療室における共同動作が理解できる。臨床の場における様々な状況に対応し得る技能を実習を通して習得できる。

③保存治療、補綴治療、口腔外科治療、歯科麻酔時、矯正治療、小児歯科治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。

④症例にあわせた診療の準備や歯科材料の取り扱いが実践できる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション 歯科診療における基礎知識(復習)
2回目	小テスト 歯科診療における基礎知識
3回目	小テスト 歯科臨床と診療補助 『歯内療法時の診療補助』
4回目	小テスト 歯科臨床と診療補助 『歯内療法時の診療補助』
5回目	小テスト 歯科臨床と診療補助 『歯周外科治療の診療補助』・歯肉パック
6回目	小テスト 歯科臨床と診療補助 『補綴治療時の診療補助』・歯肉圧排・リテーナー
7回目	小テスト 歯科臨床と診療補助 『補綴治療時の診療補助』・義歯
8回目	小テスト 歯科臨床と診療補助 『補綴治療時の診療補助』クラウン、ブリッジ、インプラント
9回目	小テスト テンポラリークラウンの作製:テンポラリークラウンの目的、用途、作製方法
10回目	テンポラリークラウンの作製:テンポラリークラウンの目的、用途、作製方法
11回目	歯科臨床と診療補助 『口腔外科治療時の診療補助』
12回目	小テスト 歯科臨床と診療補助 『歯科麻酔時の診療補助』
13回目	小テスト 歯科臨床と診療補助 『矯正治療時の診療補助』
14回目	小テスト 歯科臨床と診療補助 『小児歯科治療時の診療補助』
15回目	筆記試験・試験解説

準備学習
時間外学習

この単元は臨床実習の基礎となります。事前学習として1年生の時に勉強した歯科保存学、歯科補綴学、歯周病学の復習と、2年生前期で履修する口腔外科学、小児歯科学とも関連しますので、復習が必須です。

評価方法	1. 定期試験(40%) 2. 授業態度(20%) 3. 課題成果(25%) 4. 提出物(15%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
------	---	--

受講生への
メッセージ

知識の確認のため小テストを行います。
臨地臨床実習に向けての講義・実習になります。1年生で学んだ講義を実習で実践していきます。講義ごとに知識、技術を習得してください。

【使用教科書・教材・参考書】

最新「歯科診療補助論」、「歯科保存学」、「歯科矯正学」、「歯科口腔外科」、「歯科器具」

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	歯科診療補助論Ⅳ(臨床検査) (Dental AuxiliaryⅣ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	宮田 聖子 渡辺 理紗
学科	歯科衛生科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	30 1	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	火曜 1・2限

【授業の学習内容】

歯科診療補助論Ⅳの前半では、身体疾患の評価や治療効果評価に関わる臨床検査について講義します。社会の高齢化により、歯科医院や口腔外科にかかる患者さんであっても様々な病気を抱えています。今後、歯科衛生士には歯科領域のケアだけでなく、全身状態を考慮しながらその対応に当たることが求められると思われます。臨床検査の原理、疾患における臨床検査の意義を理解することにより、患者さんの全身状態を理解したケアができるようになります。

後半では、これまで学んできた講義内容と関連する口腔領域の臨床検査の実践を行います。

※実務者経験：宮田は大学病院に13年以上所属し、臨床検査に関しての経験を有している。主担当は生体検査であるが、検体検査に関する知識や技術の習得は臨床検査技師会の講習会などで研鑽を積んでいる。

【到達目標】

病院で行われる臨床検査全般について理解し、患者さんから求められれば検査について説明できるようになる。また、患者さんの疾患歴や検査結果から全身状態を把握し、緊急時の対応ができるようになる。

(目標①)臨床検査について理解し、説明できる。

(目標②)臨床検査機器の取扱いを習得する。

(目標③)口腔領域の臨床検査・摂食嚥下関連の検査の種類、検査器具、検査方法を習得する。

(目標④)エックス線撮影法・口腔内写真撮影法を理解し、撮影準備、セッティングを実践できる。

授業計画・内容			
1回目	(目標①)臨床検査概論、生理機能検査、血液学的検査		
2回目	(目標①)感染症の検査、肝機能の検査、腎機能の検査、糖尿病の検査		
3回目	(目標①)代謝・内分泌疾患の検査、免疫・血清学的検査、病理学的検査、画像検査		
4回目	(目標①②)検査実習と実習の振りかえり		
5回目	(目標③)口腔領域の臨床検査・摂食嚥下関連の検査：味覚検査、細菌検査、唾液の検査、口腔機能検査、口臭検査、摂食嚥下障害のスクリーニングテスト、摂食嚥下障害の検査法		
6回目	(目標④)エックス線撮影法①：口腔内エックス線撮影、パノラマエックス線撮影、頭部エックス線規格撮影、エックス線写真の整理		
7回目	(目標④)エックス線撮影法②：口腔内エックス線撮影、パノラマエックス線撮影、頭部エックス線規格撮影、エックス線写真の整理		
8回目	(目標④)口腔内写真撮影法：口腔内写真撮影法を理解する(カメラ仕組み、準備、手順)		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	(目標①)臨床検査は生理学と生化学を特に理解していないと検査内容についても理解できません。これまでに習った内容を復習しておく必要があります。 (目標②)実習前の回までに学習した内容を再度振り返っておくと当日の実習が理解しやすくなります。 (目標③)予習として「高齢者歯科」「障害者歯科」「摂食嚥下リハビリテーション」で学んだ内容の復習が必要です。 (目標④)予習として「歯科放射線学」のパノラマX線写真撮影法、デンタルX線写真撮影法の復習が必要です。		
評価方法	1. 授業態度50% 2. レポート50%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	臨床検査は患者さんの現在の状態、病期の予後を予測するうえで必須の医療です。臨床検査を理解し、患者さんに説明できるようになることで、キラッと光る歯科衛生士になりましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
教科書：歯科衛生学シリーズ「臨床検査」、「歯科診療補助論」			
参考図書：なるほどなっとく！臨床検査 南山堂			

名古屋スポーツ医健専門学校2025年度シラバス

科目名 (英)	歯科診療補助論Ⅴ(介護技術) (Dental AuxiliaryⅤ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	原麻里子
学科	歯科衛生科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	30 1	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	月曜 1・2限

【授業の学習内容】

対象者を全人的にアセスメントし、高齢者へのケアを根拠をもって立案することができる。グループワークを行い、様々な意見を聞き、歯科衛生士(支援者)としての視野を広げましょう。

歯科衛生士免許取得後、一般歯科・障害者歯科に従事する。その後看護師となり、青い鳥医療療育センターで勤務。助産師として岩田病院へ勤務し150人の分娩介助をする。祖父の死をきっかけに、2020年からは訪問看護に従事。2024年4月に株式会社フローリア設立しみたま訪問看護を名古屋市西区大野木にオープンする。

【到達目標】

- 目標1 高齢者の身体面・精神面について理解することができる
- 目標2 グループワークを行い、他者の意見を聞き、理解することができる
- 目標3 全人的な視点で対象者をアセスメントできる

授業計画・内容			
1回目	高齢者の身体・精神・発達課題		
2回目	高齢者によくある疾患		
3回目	介護保険サービス		
4回目	介護・医療・福祉サービス		
5回目	多職種連携		
6回目	まとめグループワーク グラクソスミスクライン		
7回目	GC		
8回目	確認テスト 答え合わせ		
準備学習 時間外学習	グループワークで、自分以外の他者の意見をよく聞きましょう。		
評価方法	1. グループワーク(30%) 2. 最終テスト(40%) 3. 授業態度(30%) 出席含む	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	この単元は臨地実習の基礎となり、実践的な内容となります。グループワークや演習を取り入れます。失敗を恐れず、仲間と一緒に考えてグループワークしましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：最新歯科衛生士教本「摂食嚥下教本」「高齢者歯科」			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨地臨床実習Ⅰ (Clinical PracticeⅠ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	臨床実習指導者専任教員
学科	歯科衛生科	授業形態	実習	総時間	45	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	

【授業の学習内容】 ・学外実習を行います。 ・各々学生が配置された歯科医院等（保健センター、障害者歯科センター、訪問歯科などを含む）に出向き、施設に勤務している歯科医師や歯科衛生士の指導を受け、施設における歯科衛生士の位置づけや役割を学ぶとともに、施設で歯科衛生士がどのように対象者に歯科衛生士業務を行っているかを学ぶ。 ・実習期間は、計6日間（1日：8時間）
【到達目標】 ・歯科衛生士が働く様々な現場を見学し、歯科衛生士の活躍の場の広がりを知る。 ・各施設で対象者の違いによる歯科衛生士の対応の違いや業務上の留意点を知る。 ・障がいのある人への病態に応じた行動調整法を実践する。 ・保健センターにおける歯科衛生士の役割を知る。 ・歯科衛生士の実施する公衆衛生活動を理解する。

授業計画・内容			
	1) 態度 ・ 時間管理ができる（余裕を持って行動できる） ・ 施設の規則を守れる ・ スタッフと円滑なコミュニケーションがとれる ・ 体調管理ができる ・ 積極的に実習に参加できる ・ 私語なく、実習に集中できる（公私の区別） 2) 言葉遣い ・ 挨拶や返事はきちんとできている ・ 敬語が適切に使えている 3) 身だしなみ ・ 実習衣は清潔かつ適切に着用している ・ 髪はきちんとまとめられている ・ 爪（長さ、マニキュア）、香水（強い香りを発する製品など） ・ 実習のルールに従った身だしなみ（ヘアカラー、まつ毛、コンタクトなど） 4) 知識の習得 ・ 実習前の努力（事前学習など）があった ・ 知識不足に対しての努力（質問、調べ学など）があった 5) 技術の習得 ・ 出来なかったことに対しての向上がみられた ・ 指示されたことを正しく理解し、行動できた 6) 実習日誌・記録 ・ 実習日誌の提出期限は守れた ・ 指摘箇所をきちんと訂正した		
準備学習時間 校外学習	学内で学んだ知識や技術を統合した実習となるため、既修得の分野について復習してから実習に臨んでください。実習の記録として実習日誌を作成し（評価対象となります）、実習施設と学校への提出を行ってください。		
評価方法	1. 指導者評価（70%） 2. 課題提出・成果（30%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で実施します。		
【使用教科書・教材・参考書】 臨床実習要綱			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨地臨床実習Ⅱ (Clinical PracticeⅡ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	臨床実習指導者・専任教員
学科	歯科衛生科	授業形態	実習	総時間	180	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	4	曜日・時間	

【授業の学習内容】 ・学外実習を行います。 ・各々学生が配置された歯科医院に出向き、施設に勤務している歯科医師や歯科衛生士の指導を受け、施設における歯科衛生士の位置づけや役割を学ぶとともに、施設で歯科衛生士がどのように対象者に歯科衛生士業務を行っているかを学ぶ。 ・実習期間は、計23日間（1日：8時間）
【到達目標】 ・歯科診療所での歯科衛生士の業務と役割を説明する。 ・歯科診療所での治療の流れを理解し、既習の知識と統合する。 ・歯科医療関連職種との業務の違いと特性を理解し、連携の手法を知る。 ・患者やスタッフとのコミュニケーションを積極的に実施する。

授業計画・内容			
	1) 態度 ・ 時間管理ができる（余裕を持って行動できる） ・ 施設の規則を守る ・ スタッフと円滑なコミュニケーションがとれる 2) 言葉遣い ・ 挨拶や返事はきちんとできている 3) 身だしなみ ・ 実習衣は清潔かつ適切に着用している ・ 爪（長さ、マニキュア）、香水（強い香りを発する製品など） ・ 実習のルールに従った身だしなみ（ヘアカラー、まつ毛、コンタクトなど） 4) 知識の習得 ・ 実習前の努力（事前学習など）があった 5) 技術の習得 ・ 出来なかったことに対しての向上がみられた 6) 実習日誌・記録 ・ 実習日誌の提出期限は守れた ・ 体調管理ができる ・ 積極的に実習に参加できる ・ 私語なく、実習に集中できる（公私の区別） ・ 敬語が適切に使えている ・ 髪はきちんとまとめられている ・ 知識不足に対しての努力（質問、調べ学など）があった ・ 指示されたことを正しく理解し、行動できた ・ 指摘箇所をきちんと訂正した		
準備学習時間 外学習	学内で学んだ知識や技術を統合した実習となるため、既修得の分野について復習してから実習に臨んでください。実習の記録として実習日誌を作成し（評価対象となります）、実習施設と学校への提出を行ってください。		
評価方法	1. 指導者評価（50%） 2. 課題提出・成果（50%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で実施します。		
【使用教科書・教材・参考書】 臨床実習指導要綱			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	医学概論 (Medicine Introduction)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	持田圭仁, 片田栄一 大原弘隆, 専任教員
学科	歯科衛生科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜・3限

【授業の学習内容】

超高齢社会を迎え、歯科では糖尿病、高血圧、認知症など他の基礎疾患をもつ患者さんの診療を行う機会が増えつつある。そのため、それら基礎疾患に関連する医学的知識を十分に習得した上で、歯科診療や口腔管理に当てる必要がある。この科目では、身体および精神疾患についてその症候・病態・治療などについて学習する。

実務者経験：

●持田圭仁(精神科医)：名古屋私立大学病院(2年)、蒲郡市民病院(1年)、豊川市民病院(2年9か月)、三重県立小児心療センター(3年3か月)、名古屋市立西部医療センター(3年)、名古屋市立大学医学部附属西部医療センター(4年)

●片田栄一(内科医)：名古屋市立大学病院(9年)、浜松遠州総合病院(5年)、津島市民病院(3年)、名古屋市立城北病院(4年)、名古屋市立西部医療センター(10年)、名古屋市立大学医学部附属西部医療センター(4年)

●大原弘隆(内科医)：名古屋市立緑市民病院(1年)、岐阜県立多治見病院(6年6か月)、名古屋市立大学病院(24年5か月)、名古屋市病院局(5年)、名古屋市立大学医学部附属西部医療センター(4年)

【到達目標】

下
記分野の身体・精神疾患について、その症候や病態について説明できるようにする。抗血小板薬などの歯科治療の際に注意すべき内服薬についても正しく理解する。また、問診を中心とした診察や患者さんやご家族の方への説明が円滑にできるよう幅広い知識を習得する。

授業計画・内容	
1回目	9月10日(水)第3限目：消化器疾患について説明できる(担当：大原)。
2回目	9月17日(水)第3限目：循環器疾患について説明できる(担当：大原)。
3回目	9月24日(水)第3限目：呼吸器疾患について説明できる(担当：大原)。
4回目	10月1日(水)第3限目：精神疾患について説明できる(担当：持田)。
5回目	10月8日(水)第3限目：脳神経疾患について説明できる(担当：片田)。
6回目	10月15日(水)第3限目：代謝・内分泌疾患について説明できる(担当：片田)。
7回目	10月22日(水)第3限目：がん・アレルギーについて説明できる(担当：大原)。
8回目	10月29日(水)第3限目：試験および解説
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習	1年次に学んだ解剖学や生理学などの基礎医学を十分に復習した上で授業に望む必要がある。また、授業時間外に各自与えられたテーマに関して参考文献や資料を読み、資料作成を行う時間を確保する必要がある。		
---------------	--	--	--

評価方法	定期試験：90% 出席・態度：10%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
------	-----------------------	--	--

受講生へのメッセージ

超高齢社会を迎え、歯科では糖尿病、高血圧、認知症など他の基礎疾患をもつ患者さんの診療を行う機会が増えつつある。そのため、それら基礎疾患に関連する医学的知識を十分に習得する必要があります。しかし、授業数が限られているため、特に重要と考えられる疾患について授業で解説します。わからないことは授業中に質問して解決しようとする積極的な姿勢が望まれます。

【使用教科書・教材・参考書】

歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック（医歯薬出版株式会社）

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	看護学概論 (Nursing Introduction)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	吉村元輝
学科	歯科衛生科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	後期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	木曜 1・2限

【授業の学習内容】

多職種連携の際に協働する看護師の価値観や考え方を理解するため、看護理論や看護師の活動する現場について認識を深め、病院や在宅の現場でどのように協働することが患者や家族にとっての質の高い治療ケアとなるのか、グループワークなど積極的に取り組み知識を習得していく。

【実務者経験】

2005-2017年 大学病院で外科・内科・緩和ケアを専門で実践し、2018年からは在宅で訪問看護に携わる。

【到達目標】

チーム医療における多職種連携に関わる看護師の役割や看護職の価値観・考え方を理解する。
また、他職種の理解を深めることで患者・家族中心の医療に必要な目標とするとよいか気づきが得られる。

授業計画・内容

1回目	多職種を知る		
2回目	看護の基本となるもの		
3回目	バイタルサイン・手術・化学療法・放射線療法看護／救命センター・緩和ケアセンターの看護		
4回目	地域包括ケアシステムにおける在宅看護の実際		
5回目	緩和ケア・終末期の看護		
6回目	もしバナカードをつかって自己の死生観を知る		
7回目	医療倫理／まとめ		
8回目	試験・解説		
準備学習 時間外学習			
評価方法	1. 筆記試験80% 2. 授業参加状況20%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	糖尿病や心臓疾患の重症化予防、手術後の回復などに口腔内の状態が関与することが明らかになり、歯科衛生士さんの役割は近年とても幅広くなっています。私の同僚にも大学院で学習し大学病院で活躍する素晴らしい知識と技術をもった歯科衛生士の同僚が多かったです。チーム医療の一員として病院でも地域でも患者さんから信頼される素晴らしい歯科衛生士さんを目指し共に学んでいきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
資料配布			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	リハビリテーション概論 (Rehabilitation Introduction)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	濱谷 光陽
学科	歯科衛生科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			2	曜日・時限	火曜・3限	
【授業の学習内容】 チーム医療に必要なリハビリテーションの概念を理解し、ICF分類を活用できる。また、臨床において遭遇する代表的疾患の障害を理解し、介助時のリスク管理及び注意事項を実践できる。 実務者経験：昭和62年に免許を取得し、実務者経験は15年で、総合病院（急性期～回復期）に所属する。主業務は、脳血管障害や整形疾患の術後リハビリテーションを行っていた。また、老人保健施設など福祉系施設にも所属し、高齢者を取り囲む障害・環境を考慮し、在宅復帰に向けたリハビリテーションを行っていた。 教育経験は17年であり、「生体の構造と機能」「障害学」などの基礎系科目を担当していた。							
【到達目標】 リハビリテーションの概念を理解し、ICFを用いて障害の分類が出来る。また、障害体験を実施し、車椅子生活の不自由を経験する。臨床にて係わりを持ちやすい代表的疾患である脳血管障害、高次脳機能障害、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、関節リウマチの障害を理解する。							

授業計画・内容			
1回目	リハビリテーション、ノーマライゼーションについて		
2回目	障害分類(ICF)について		
3回目	リハビリテーションチーム医療について		
4回目	障害体験(屋外車椅子体験)		
5回目	障害受容について		
6回目	機能障害(関節拘縮、筋力低下など)、廃用症候群、過用症候群、誤用症候群		
7回目	障害者体験(片麻痺体験・高齢者体験)		
8回目	脳血管障害の病態・障害		
9回目	パーキンソン病の病態・障害		
10回目	起居動作、立ち上がり動作介助		
11回目	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の病態・障害		
12回目	脊髄小脳変性症の病態・障害		
13回目	脊髄損傷の病態・障害		
14回目	関節リウマチの病態・障害		
15回目	装具装着方法、理学療法作業療法の治療		
準備学習 時間外学習			
評価方法	1. 定期試験(90%) 2. 出席・授業態度(10%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	歯科衛生士になぜ、リハビリテーションについて知る必要があるのかと疑問もあると思いますが、歯科医院に就職すると上記のような障害を持った患者様も来院されます。その際に、介助など必要になるかもしれません。そのためにも、リハビリテーションについての知識も持っておいてください。		
【使用教科書・教材・参考書】 適宜、印刷物を配布します			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	摂食嚥下リハビリテーション学/小児 (Dysphagia Rehabilitation Science /children)	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	石黒 光
学科	歯科衛生科	授業	講義	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	1	曜日・時限	金曜・1限

【授業の学習内容】 摂食嚥下機能について、従来の咀嚼機能に重点が置かれ摂食機能について捕食から嚥下までを一貫して学び、近年、重症児、とくに医療的ケアを要する小児の増加が顕著で、これらの患者の摂食嚥下機能障害に対応できる歯科衛生士を養成することを目的とする。本講義では、小児について乳児から摂食嚥下機能がどのように発達、学習していくか、その過程でどんな問題により機能が障害されるかを理解すること。講義終了時点では、解剖学的知識をふまえ、発達の観点で摂食嚥下過程を理解し、その障害について評価し、リハビリテーションの手法、障害に応じた食介助法、食形態など説明できるようにする。 実務経験：1979～2016年まで愛知県コロニー中央病院歯科で、多数の重症児を診療し、その後、重症児デイで摂食嚥下のリハビリテーションに関わっている。朝日大学障害者歯科非常勤講師。
【到達目標】 ①摂食嚥下に関わる器官の解剖学的な知識を機能との関係で説明できる。 ②摂食嚥下の発達プロセスについて、全身の発達とともに関連付けて説明できる。 ③重症児の摂食嚥下機能の障害を理解し、その原因について知る。 ④その機能障害の評価ができる。 ⑤評価をふまえ訓練法、食介助法、食事形態などの対応について説明できる。

授業計画・内容			
1回目	リハビリテーション概論・総論		
2回目	摂食嚥下のメカニズム		
3回目	小児の摂食嚥下機能の発達		
4回目	高齢者の摂食嚥下機能の低下と障害		
5回目	摂食嚥下機能の評価・検査、リハビリテーション		
6回目	摂食嚥下機能障害の患者に対する食事姿勢、介助法、食形態、栄養		
7回目	摂食嚥下機能障害と口腔ケア、地域における多職連携した支援法		
8回目	試験		
9回目			
10回目			
準備学習 時間外学習	①解剖学で学んだ器官と口腔生理学での知識と関連付けて、学習することが必要です。 ②小児の身体的、精神的発達と摂食嚥下機能の発達を関連付けて学ぶため、小児歯科など関連づけて学習する。 ③障害の特徴を十分理解したうえで、歯科医療や保健指導でのリスクについて予習が必要です。 ④摂食嚥下機能の障害について、何が問題でうまく食べられず、飲み込めないかを検査、評価し、リハビリテーションを相互実習などを通じ学習する。		
評価方法	1. 定期試験（80％） 2. 小テスト（20％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	歯科分野で「食べる」ことについては咀嚼がメインですが、この講義では、日常何気なく食べて嚥下するという機能全般を、解剖学と生理学を重ね合わせて理解します。この摂食嚥下機能を私たちが、どう獲得するかを口腔咽頭の各器官の神経支配や筋肉の動きを把握し、障害がある子どもたちがなぜうまく摂食嚥下できないかを理解し、そのうえで歯科衛生士としてリハビリテーション的思考で対応法や食形態などについても学びます。この講義後の高齢者につなげます。		
【使用教科書・教材・参考書】			
教科書： 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 医歯薬出版			
参考書： 小児の摂食嚥下リハビリテーション 医歯薬出版			
子どもの摂食・嚥下障害 永井書店			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	摂食嚥下リハビリテーション (成人) (Dysphagia Rehabilitation Science /Adult)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	岡本 美英子
学科	歯科衛生科	授業	講義	総時間	15	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	1	曜日・時限	水曜・12限

【授業の学習内容】

食べる機能の障害を有する対象者に、適切な歯科衛生ケアを施行するために必要な知識・技術・態度を修得する。

高齢者歯科医療、在宅訪問歯科医療における摂食嚥下リハビリテーションの役割を理解し、具体的に訓練などが行えるようになる。

※実務者経験：2014年4月～藤田医科大学病院にて、多職種と連携し主に成人に対する歯科診療および摂食嚥下リハビリテーションを行っている。また出向先として回復期リハビリテーション病院や在宅訪問診療での摂食嚥下リハビリテーションにも携わっている。

【到達目標】

- ①摂食嚥下に関わる解剖・生理、加齢変化を説明できる。
- ②摂食嚥下障害の原因となる疾患、病態を説明できる。
- ③摂食嚥下障害のスクリーニング・精密検査を説明できる。
- ④その機能障害の評価ができる。
- ⑤評価をふまえた訓練法、食事介助法、食事形態などの対応について説明できる。

授業計画・内容

1回目	摂食嚥下リハビリテーション概論、障害者・要介護高齢者について		
2回目	摂食嚥下に関わる解剖・生理、加齢変化		
3回目	摂食嚥下障害の原因となる疾患、病態		
4回目	摂食嚥下障害に関わる評価、口腔機能低下症、栄養管理		
5回目	摂食嚥下障害のスクリーニング・精密検査		
6回目	摂食嚥下障害者への対応1（機能訓練）		
7回目	摂食嚥下障害者への対応2（リスク管理、食事介助）		
8回目	摂食嚥下障害者への対応3（口腔ケア）		
9回目	試験 および 試験解説		
10回目			
準備学習 時間外学習	①解剖学や口腔生理学の知識と関連付けて学習することが必要です。 ②加齢変化や全身疾患など、高齢者歯科の知識と関連付けて学習することが必要です。 ③摂食嚥下機能の障害について、なぜ食べられないか、なぜ飲み込めないかを評価しながらリハビリテーションを組み立てる考え方を習得することが必要です。		
評価方法	1. 定期試験（80%） 2. 学習姿勢（10%） 3. レポート（10%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	高齢化社会において、病気を持つ患者さんは増えつつあり、同時に嚥下障害を持つ患者さんも増えています。 摂食嚥下リハビリテーション学は、口のプロフェッショナルとして、今後欠かせなくなる領域です。 解剖・口腔生理学、高齢者歯科などと結びつけ、実際の場面を想像しながらしっかり学んでいきましょう。		

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション」（医歯薬出版）、

参考書：「摂食嚥下リハビリテーション 第3版」（医歯薬出版）

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	こどもコミュニケーション (Children's Communication)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	専任教員
学科	歯科衛生科	授業形態	講義	総時間	15	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	金曜・12限

【授業の学習内容】

保育者として、歯科衛生士として、子どもと関わる際に適切な援助ができるよう、子どもに対するコミュニケーションスキルを学ぶ。
そして、両職種の知識を活かし、現場で活かせる媒体を制作、発表することにより、具体的な援助方法を考え検討していく。

【到達目標】

- ・小児のコミュニケーションスキルの発達や特性など、基本的な知識を理解する。
- ・具体的な援助の方法、媒体を通した伝達方法を知り、実践力を身につける。
- ・発表を通して、子どもたちに伝わる表現スキルや工夫を考える。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション〈子どもの発達段階とコミュニケーションスキル、媒体紹介、現場での取り組みや実践方法を知る〉
2回目	乳幼児の発達・発達①〈年齢別の子どもの発達・発達について理解し、現場でのイメージができる。〉
3回目	乳幼児の発達・発達②〈年齢別の子どもの発達・発達について理解し、現場でのイメージができる。〉
4回目	子どもの心理①〈子どもの考え方の特徴を理解し、関わり方のイメージを持つ。〉
5回目	子どもの心理②〈子どもの考え方の特徴を理解し、関わり方のイメージを持つ。〉
6回目	媒体製作〈発達段階に合わせた媒体作りの計画を立て、見通しを持って制作に取り掛かる〉
7回目	媒体製作〈計画に基づき、制作を進めることができる〉
8回目	発表・振り返り〈歯科指導の実践を行う・実践のまとめができる〉
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習時間外学習
子どもたちの興味をひく媒体について、インターネットや文献を参考にして事前学習をしておきましょう。
媒体制作の準備期間は極めてタイトなスケジュールになります。しっかりとグループ内で役割分担をし、全員で協力をして計画的に作業を進めましょう。必要な場合は授業外に各々集まって作業を進めることもあるかと思います。

評価方法	1. 出席 (50%) 2. 授業取り組み姿勢、振り返りレポート、発表 (50%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
------	---	---	--

受講生へのメッセージ
子どもにとって歯の健康を維持することは基本的な生活習慣の中でも非常に重要になってきます。貴重な多職種連携授業となりますので、お互いの学科で学んだことを積極的に伝え合ったり、学年を超えてアイデアを出し合ったりすることで自らの学びに繋げましょう。

【使用教科書・教材・参考書】プリント配布

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	医療保険・医療管理 (Medical Insurance・Medical Management)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	亀井 俊雄
学科	歯科衛生科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時間	水曜・3限

【授業の学習内容】

歯科医療は、診療報酬体系の中に位置づけられています。診療報酬を体系的に理解することは、治療の全体像の把握につながります。また、歯科衛生士に関係が深い口腔管理についても、大きく変化しています。本授業を通して臨床の実戦力を養う。

※実務者経験：1991年4月～1997年3月愛知県歯科医師会社会保険部部員でした。会員である歯科医師に対して社会保険(医療保険)を理解しやすいように伝達・講習を行った。1997年～2003年まで中区歯科医師会社会保険地区担当者、2007年～2011年まで中区歯科医師会専務、2011年～2017年まで副会長として社会保険・医療管理を主に担当していた。

【到達目標】

- ・保険診療の仕組みや内容を理解する。
- ・カルテの略称・カルテ用語を理解して、診療内容を読み取り、診療の準備をできるようにする。
- ・診療上必要な医療安全対策について学ぶ。

授業計画・内容

1回目	臨床実習に行く心構え、保険点数表の見方、保険用語略称、保険の種類について学ぶ
2回目	臨床実習先で困った事、わからなかった事について話し合う。実際の診療(カルテ・レセプト)の流れを学ぶ
3回目	臨床実習先での質問、歯周病治療についての流れを学ぶ
4回目	臨床実習先での質問、教科書(修復・歯内治療・クラウンブリッジ・義歯・抜歯)
5回目	臨床実習先での質問、レセプト、歯牙の形態について学ぶ
6回目	臨床実習先での質問、医療管理(消毒・滅菌)を学ぶ
7回目	臨床実習先での質問、医療管理(心臓病・糖尿病等の基礎疾患患者への対応)を学ぶ、今までの復習
8回目	試験 および 試験解説
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習
時間外学習
各回で講義後にレポートを作成し、提出する。
臨地臨床実習の中で、カルテを参照し、治療の流れを理解し、日誌を作成する。

評価方法	1. 定期試験(60%) 2. 授業態度(20%) 3. レポート(20%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
------	--	--

受講生への
メッセージ
病院・診療所などでの臨床実習に際し、治療準備・治療・後片付けがスムーズに行えるようにしたい。そのためにカルテの内容が理解できるように学習し、治療時の感染などにも注意できるように学んで臨床実習に臨めるようにしたい。また、患者さんから感染しない、あるいは患者さんへ感染させない等、医療人としての基礎を身に付けて欲しい。

【使用教科書・教材・参考書】

歯科診療報酬入門 医歯薬出版株式会社

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	歯科衛生研究 (Dental Hygiene Research)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	井坂 雅徳
学科	歯科衛生科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	金曜 2限
【授業の学習内容】 臨床研究に必要な基礎的能力は、生涯にわたり必要である。統計学等の数学的な考え方は、臨床研究以外にも役立ち、とても大切な知識である。歯科保健指導や口腔ケアなど、歯科衛生士業務の実践場面での疑問や問題を自ら解決していくためには、これらの基礎的能力が必須である。この講座は、臨床面で直面するデータを統計学的に考え、理化学的に発表できることを目標としている。 ※実務者経験：平成13年4月以降、名古屋市立大学医学研究科細菌学講座にて、細菌学の講義および実習を担当している。医学部生に対し、細菌感染症の実際の病理、症状、臨床学的検査方法、その後の抗生物質の使用方法などを講義、実習を行っている。また、感染症の研究結果を実際に英語論文にして公表をしている。このやり方の根幹部分を学生への授業として取り入れ講義をしている。							
【到達目標】 目標① どのようなデータにおいても、統計学的に処理できる基礎的尿力を理解、判断できることを習得する。 目標② 科学的根拠に基づいた歯科衛生行動をとるために、歯科衛生、歯科臨床に関する課題を自ら見出し、研究を行い、論文として作成するための基本的な知識、技術、態度を習得する。 目標③ 論文のプレゼンテーションができる。論文とは何かを理解できる。							

授業計画・内容	
1回目	目標①②基礎的なデータ処理、データとは何かを理解する。前処理とは何かを理解する。
2回目	目標①②統計とは何かを理解する。自分で統計を取って計算し、理解する。
3回目	目標①②統計を取るための研究立案を考える
4回目	目標①②論文を検索する。文献を検索する。
5回目	目標①②③論文とはなにか。論文の構成、読み方、理解の仕方を理解する。
6回目	目標①②③論文抄読会 統計データを使った論文のプレゼンテーションとその理解、討論を行う
7回目	目標①②③統計データ 発表会 自分で計算した統計データを発表し、討論を行う
8回目	試験および試験解説
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	統計処理を行うには計算が必要です。文献を読むには辞書(英和、和英、国語)が必要です。プレゼンテーションを行うには、パワーポイントが使えることが必須です。各自準備をしてください。
評価方法	1. 定期試験(60%)毎回のレポートから出題します。 2. レポート(20%)毎回授業の最後に課題を出します。その時に記載をして採点をします。理解度を拝見します。そしてレポートを元に試験が出されます。レポートでも採点をして定期試験に反映させます。 3. 授業態度(20%)どのような態度で授業を受けているか確認をします。 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格 レポートの点数も最終点数に反映させています
受講生への メッセージ	理化学的にデータを判断するには統計学の知識が必須です。臨床でも基礎でも、この統計学を理解していないと正しい解釈ができません。この講座で正しい統計学を学び、生かしてください。
【使用教科書・教材・参考書】 歯科衛生士教育サブテキスト 卒業研究 HAND BOOK	

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	教養演習Ⅱ (Liberal Arts Exercises Ⅱ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	渡辺理紗
学科	歯科衛生科			総時間	30	開講区分	
コース	昼間Ⅰ部	授業形態	演習	(単位)	2	曜日・時 限	前期 月曜2限 後期 水曜4限

【授業の学習内容】

専門学校生として、卒業後社会人として必要な教養を身につけるための科目です。学内では様々なイベントを通し、他学科、他学年と交流を持つことで、コミュニケーション能力を身につけます。学外では見学や実習などの学内では得られない体験を通し、将来のビジョンを明確化します。

【到達目標】

- ・学校行事を通して、地域貢献やボランティア活動を実施する。
- ・グループワークを通じて、多角的なものの見方と価値観を理解する。
- ・自分の意見を発表することで、自分の意見をまとめ、人に伝える能力を養う。
- ・歯科衛生士が働く現場を見学し、歯科衛生士像を明確化する。
- ・歯科関連施設や行事を見学し、専門科目に対する興味や関心を得る。
- ・既取得内容の現場での実践状況を知る。

授業計画・内容

1回目	昨年の教養演習の中で印象に残ったものを新1年生の前で発表する。
2回目	新学年の授業にどのように取り組み効果を上げるかをグループで討議し、発表する。
3回目	若きクリエイター展を通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
4回目	若きクリエイター展を通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
5回目	若きクリエイター展を通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
6回目	愛知学院大学 歯学部 歯科資料展示室・図書情報センター見学
7回目	学園祭を通して企画力、協調性を養い、地域貢献ができる。
8回目	学園祭を通して企画力、協調性を養い、地域貢献ができる。
9回目	学園祭を通して企画力、協調性を養い、地域貢献ができる。
10回目	スポーツ大会を通し、企画力、協調性、積極的に行動することができる。
11回目	若きクリエイター展を通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
12回目	若きクリエイター展を通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
13回目	若きクリエイター展を通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
14回目	若きクリエイター展を通して、研究発表の形式や運営について学び、協調性を身につける。
15回目	1年を振り返り、次年度学年で何をするべきか、自分で考える。

準備学習時間
外学習

少ない授業回数で行事参加への準備をします。その為、積極的な時間外学習を行ってください。

評価方法	1. 出席 (60%) 2. 提出物 (10%) 3. 授業態度 (30%)	評価方法はGPA制度となります 1.00～9.0点 S 8.9～8.0点 A 7.9～7.0点 B 6.9～6.0点 C 5.9点以下 F 不合格	単位認定条件 ①「学園祭」「スポーツ大会」「若きクリエイター展」に必ず出席すること
------	--	--	--

受講生への
メッセージ

前後期続きの科目となります。臨床実習中で時間割が変更となる場合がありますので、時間割変更に注意してください。学生の間に身につけたい教養について、考えていきます。演習を中心に行うため、積極的に参加し、能動的な学びができるよう、心がけてください。外部施設等の見学実習では、体調管理に気を付け、少ない機会を無駄にしないように心掛けてください。（欠席等で時間が不足の場合補講は休日や長期休暇を利用します。）

【使用教科書・教材・参考書】

授業内で配布されるプリント、レポートを使用します。